

# 身体障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

## 事業の総括

- 1 ノーマライゼーションとリハビリテーションの理念に基づき、利用者が地域社会の一員として自立生活ができるよう支援を行うとともに、利用者の主体的意欲を尊重し、経済的、文化的活動に参加できるよう支援を実施した。
- 2 職員は、会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者の立場にたった福祉サービスの提供に努めた。
- 3 障がい者が地域において自立生活ができるよう、支援および医療、リハビリテーションなどを行い、その福祉の向上に努めた。
- 4 地域社会や在宅者との結び付きを重視し、利用者・市町村・保健・医療およびその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する就労継続支援B型事業所「ウィール社」とともに総合的な運営を行った。

## 施設運営

- 1 会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を重んじ、利用者本位の福祉サービスに努めた。
  - (1) 会是の精神にもとづき、利用者の立場で福祉サービスを行った。
  - (2) 一人ひとりに思いやりと気づかいの出来る、適切な支援を心がけた。
  - (3) スタッフは、自己啓発に努め、自らの視野を広め、援助者として抱擁力のある姿勢で支援を行った。
- 2 快適な施設、設備づくりと安全な生活環境づくり
  - (1) 施設内は、清潔に努め、常に快適で潤いのある生活環境に努めた。
  - (2) 施設の防災設備は、常に良好な状態で維持し、正常に作動するよう、保守点検を行った。
  - (3) 非常災害に備え、消防計画に沿った総合的な防災、避難訓練を実施した。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/23										3/12	2
消火訓練		5/23										3/12	2
夜間通報訓練								11/26					1
図上訓練		5/23										3/12	2
夜間訓練													0
防災地震訓練								11/27					1

- (4) 施設内の事故防止に心がけると共に、万一事故が発生した場合でも、関連機関及び家族への連絡など迅速な対応がはかれるよう、訓練を実施した。
- (5) 万一の災害に備え、各種保険制度へ加入している。

## 生活と自立への支援

- 1 利用者の日常の基本的な生活習慣の獲得にむけての援助や残存機能の維持、さらに就労意欲の高揚をはかり、生活の安定と職業的自立に向けた取組みを図った。
- 2 コーポラスこくふはウィール社の利用者や他施設の利用者との仲間意識を育む等、互いの労働意欲を高める交流の場としての役割を果たしてきた。
- 3 コーポラスこくふ周辺にスーパー等の店がないため、食品や日常生活用品の買物のために、週に一度最寄りのスーパー等への買物送迎を行った。
- 4 施設利用者間の協調性も生まれ、共通の諸行事もスムーズに行われた。
- 5 自動車免許所持者で通勤や生活のために自動車を所有している方には、駐車場を用意している。
- 6 コーポラスこくふの利用状況  
満18歳以上の障がい者であって、働く意欲のある方を対象者とする。  
(1) 企業への就労や作業施設に通所される予定のある方、または働いている方。  
(2) 日常生活動作の自立と身の周りの整理等ができ、地域社会の一員としての生活ができる方。  
(3) 原則として自己の責任において家賃や生活費を賄うことのできる方。  
(4) 伝染病等の疾病がなく共同生活を営むことができる方。
- 7 コーポラスこくふの利用状況

平成26年3月31日現在

区分	階層	戸数	居住面積	設備の状況	利用できる方	和・洋の区分	利用状況	家賃の額		
単身者向住宅	1階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	トイレ、洗面台 流し台、寝台 冷暖房設備、浴室は 共用(男女別)	車椅子生活者	洋室	4人	月20,000円		
	2階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	4人	月20,000円		
夫婦向住宅	1階	1戸	43.8㎡	トイレ、洗面台 流し台、寝台 浴室、冷暖房設備	車椅子生活者	洋室	1人	月30,000円		
	2階	1戸	43.5㎡	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	1人			
共用施設	1階	管理人室 談話室 浴室 その他	33.75㎡ 34.50㎡ 52.50㎡ 93.15㎡	2階	小集会室 物置 その他	62.00㎡ 34.00㎡ 66.45㎡	駐車場	10台	すべて利用する (共同利用する)	共益費 2,000円～

## 8 利用契約者の状況

平成26年3月31日現在

区分	障害の種類			
	身体	知的	精神	合計
契約者	6人	4人	0人	10人

## 9 コーポラスこくふの職員

管理者	1名(ウィール社所長ファースト所長兼務)
管理人	1名(17:30 ~ 8:30勤務)

### 10 今後の支援方法の検討課題

- (1) 入居者の高齢化に機能低下が伴って、常時車椅子使用入居者が4名になっている。日常生活活動に支援を必要とする方が増えてくることが予想される。日常生活活動レベルの維持とそれに向けた支援の提供をどのようにしていくか。特に機能上入浴動作や洗身動作が不十分となる方が出てくるであろう。浴槽と洗い場の改修を26年度中に行う予定をしている。
- (2) コーポラスこくふは、日常生活が自立している方の入居となっているため介護人がいない。部屋の掃除や洗濯が一人では困難となってきた2名の方の内1名は週に1度、他の1名は2週に1度ヘルパーを活用している。1名については、65歳になったことで、介護保険の対象となり、介護度調査の結果、要支援2となった。今後、自立に向けての支援には限度があり、介護保険の制度を利用し、支援を受けながらの生活となるであろう。介護認定が要支援から要介護となれば退室せざるを得ない。このことを視野に入れ、ケアハウスや介護老人ホーム等コーポラスこくふ以外での生活の場の準備を、ケアマネージャーと連携をとり検討を始めている。
- (3) 入居者10名中7名(内車椅子4名)は、休日の三食を隣接する障害者支援施設こくふのシンフォニーで食事をしている。(片道約100m) 管理人のいない昼食において悪天候時は食べに行くことも大変な状況となってきた。